

# 高知県内の総合型地域スポーツクラブの現状と課題

清原 泰治

(高知女子大学文化学部教授)

高知県佐川町に、高知県で20番目の総合型地域スポーツクラブ(以下、総合型クラブとする)となる佐川町さくらスポーツクラブが誕生した。私はいくつかの総合型クラブの設立過程を見てきたが、設立に至るまでに越えなければならないハードルは少なくない。関係者の熱意とご努力に敬意を表したい。

毎年増え続けている県内の総合型クラブだが、いくつかの点で総合型クラブ間の‘格差’が気になっている。それは、言い方を変えれば‘個性’でもあるのだが、今後の運営について多少心配なこともある。

私が指導してきた高知女子大学文化学部の野川絢加さんが、昨年8月から9月にかけて県内の19の総合型クラブを訪問して調査を行い、その成果を本年1月に卒業研究にまとめて提出した。

今回のコラムでは、野川さんの許可を得て、この卒業研究で明らかになったことに私の理解を含めて、高知県内の総合型クラブの現状と課題を指摘したい。

\* \* \* \* \*

野川さんの卒業研究の題目は、「高知県の総合型地域スポーツクラブに関する調査研究」である。高知県教育委員会体育スポーツ課と高知県体育協会のご助力を得て、県内の総合型クラブの代表者にインタビューを行い、いただいたパンフレットや資料もあわせて考察して、県全体の総合型クラブの特徴を明らかにし、各クラブの課題とその解決策の提言を行っている。

全体の特徴については、①設立の経緯、②目的、③事業、④組織形態、⑤財政の五つの視点から総合型クラブを分析して類型化した。その結果、以下のような特徴が浮かび上がってきた。

(1) 行政主導で設立された総合型クラブがやや多い。

市町村教育委員会の社会体育担当者がリードして設立された、いわゆる行政主導の総合型クラブがやや多かった。そのような総合型クラブは、設立後も行政に依存する傾向が強く、総合型クラブの理想である住民主体のクラブ運営に移行できていない例もある。

(2) 生涯スポーツの普及とまちづくりを目的に掲げる総合型クラブが多い。

(3) 事業はスポーツ教室やサークル活動が中心である。

ほとんどの総合型クラブは、スポーツ教室やサークル活動を中心に活動している。まちづくり事業に力を入れて活動し成果を上げている総合型クラブはまだ少ない。

また、設立母体のある総合型クラブは、クラブの設立後も事業にあまり変化がない場合が多い。そのため、「新しいスポーツクラブができた」ことを地域住民に浸透させることに苦労している総合型クラブもある。

(4) NPO法人になっている総合型クラブは経営が安定している。

市町村のスポーツ施設の委託管理を受けているので、活動施設や事務所等を確保でき、専任スタッフを置くことができる。運営体制が整っており、財政的にも安定したクラブ運営ができています。

逆に言えば、NPO法人になっていない総合型クラブは財政規模が小さく、専任スタッフを常駐させることもできないので、長期的に見れば経営が不安定にならざるを得ない。

(5) 新しい事業に取り組むには、財政的に厳しい総合型クラブも少なくない。

会費と事業収入、補助金で運営している総合型クラブが多く、行政からの事業委託費や協賛金を得ている総合型クラブもある。

会費と事業収入のみで運営している総合型クラブは、教室開催や指導者の確保が、補助金や委託費をもらっている総合型クラブよりも限られたものになり、活動の活性化が難しい。

施設の委託管理や委託事業を受けて行政からの補助金を得ている総合型クラブは、どの総合型クラブも経営が安定し、充実した活動を展開していることがうかがえる。

(6) 県は、広く総合型クラブのPR活動の充実と、総合型クラブ間のネットワークの構築を実現させていくことが必要なのではないか。

\* \* \* \* \*

大学生の卒業研究であり、県内の総合型クラブの実態とは異なる点があるかもしれないが、私がこれまでに担当者にお話をお聞きし、あるいは昨年1月の高知県教委主催の研修会で感じたこととほぼ一致した結論になっていると思う。

NPO法人になっている総合型クラブは、財政的に安定しているので、専任スタッフを置き、スポーツ教室の開催を中心に積極的なクラブ運営ができており、それが新しい会員の獲得につながってさらに活動が活性化していくことが期待できる。まちづくり事業の充実も進んでいくことだろう。

しかし、NPO法人の総合型クラブは4クラブしかない。その他の総合型クラブは、小規模であったり、行政担当者が事務局を抱えている場合もある。財政的にも厳しい状況があるし、スタッフの負担も大きい。行政担当者は異動があり、後任の担当者が変わらずに熱意を持って運営を担えるかどうかという不安もある。

設立はしたけれど、新事業を展開することができずに苦労している総合型クラブもあるし、存続が危惧される総合型クラブもあるというのが、高知県の現状であると言えるだろう。そのような現状を打開するためには、これまで各総合型クラブが蓄積してきたノウハウや知恵を共有するための、新たな連絡協議会というようなものをスタートさせることが必要ではないかと思っている。総合型クラブ間の横のつ

ながりの強化である。高知県教委や高知県体育協会に期待したい。

もう一つの課題は、総合型クラブの運営を担う次世代の人材養成である。これはスポーツに限らず、まちづくりに関わっている組織が抱える共通の課題でもある。

「総合型クラブ不毛の地」であった高知県東部の市町村で、総合型クラブ設立に向けての準備作業が始まっていると聞いた。私の住む町でも、総合型クラブの設立を求める声が高まりつつある。課題が山積していても、まず設立しなければ何も始まらないことは言うまでもない。ただ、教科書通りの総合型クラブではなく、設立までに地域の実情をよく把握し、地域住民のスポーツニーズにあった総合型クラブを設立されることをお勧めしたい。

地域スポーツの夢を実現するための総合型クラブとなることを願っている。